

## ■状態(S)指標の作成イメージ

## ①状態指標

例：福岡市の生物多様性の健全性⇒  
生態系の多様性⇒

『ニホンアカガエル・ヤマアカガエル・カスミサンショウウオの産卵数』  
(樹林と水辺の生態系ネットワーク)

## ②モニタリング地域

- ・ 丘陵地と水辺（水田、水路、湿地、溜池等）が存在する二次的自然地域
- ・ 良好な環境、営農地、耕作放棄地等から継続的モニタリング対象地を数箇所選定
- ・ 調査地は、過年度自然環境調査結果等のデータを活用して選定

## ③モニタリング方法

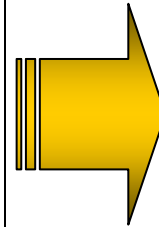
- ・ モニタリング対象地においてニホンアカガエル・ヤマアカガエル・カスミサンショウウオの産卵数をカウント（産卵期に1回/月程度）
- ・ 調査は、福岡市自然環境調査の新たなカテゴリーとして立ち上げるか、プラットフォームに参加するNPO等の活動の一環として位置づける

## ④モニタリング頻度

- ・ 1回/5年（あるいはもう少し高頻度で）程度実施

## ⑤指標とした理由

- ・ ニホンアカガエル・ヤマアカガエル・カスミサンショウウオ等は、繁殖期の安定した水辺環境（期間中を通じて、水温・水質・水量の一定した環境）と非繁殖期の生息環境である良好な樹林地（餌資源が安定して確保でき、土湿が適度で腐植土層に富む林床環境）が連続して存在（生態系ネットワーク）する環境が必要
- ・ 一卵塊（卵のう）は、雌一腹から産卵されるため、産卵数をカウントすれば概ねの生息数のオーダーが把握でき、増減を評価できる



## ■取組(R)指標の作成イメージ(状態(S)指標に対応)

## ①対応する取組指標候補 ⇒今後、下記取組候補から指標作成取組を絞り込む

- 例：72.『残された生育・生息の基盤となる生態系の保全（特に水田やため池、明るい林、草地、干潟、砂浜等）』：総合評価0
- 95.『減少著しい人の自然への働きにより維持されてきた生態系（明るい林や草原）の保全、復元』：総合評価0
- 99.『農業、農村の振興による農地等の保全（環境にやさしい農業新技術の開発、農村づくりの整備構想の策定、水環境整備事業・ため池等整備事業の推進、環境保全型農業の推進などによる身近な自然の保全・再生）』：総合評価3
- 124.『希少野生生物の保護とそれら生きものの生息地の保全』：総合評価2
- 154.『エコロジカルネットワークを形成する様々な緑を充実させる（樹林地の保全・管理、ビオトープ型の公園整備、ため池等の保全と公園的整備、自然共生型整備・管理、学校の緑化推進、その他の公有地等における緑の創出、屋上・壁面緑化など市街地の緑化推進）』：総合評価3
- 176.『生育・生息の基盤となる生態系機能の連続性の確保』：総合評価1
- 209.『森林、ため池の保水・遊水機能の保全』：総合評価0

## ②モニタリング地域

- ・ 取組(R)指標の施策実施対象地域
- ・ 状態(S)指標のモニタリング対象地域

## ③指標のモニタリング方法イメージ(例)

⇒今後、上記から絞り込んだ取組候補について指標を作成

⇒下記のモニタリング指標イメージについては、単なる指標値の増減だけでなく、モニタリングを重ねるにつれてより良い取組に改善していけるような仕組みを今後検討したい

- ・ 72.『残された生育・生息の基盤となる生態系の保全』、124.『希少野生生物の保護とそれら生きものの生息地の保全』

指標例⇒緑地保全地区の指定面積（Oha→Oha）

指標例⇒自然再生事業、自然環境保全事業等の累計件数（〇件→〇件）

指標例⇒市民団体等による希少野生生物等の保護活動の実施件数（〇件→〇件）

- ・ 99.『農業、農村の振興による農地等の保全』

指標例⇒農業、農村の振興に資する整備構想、整備事業、保全事業等の実施の累計件数（〇件→〇件）

指標例⇒耕作放棄地の面積（Oha→Oha）

## ④モニタリング頻度

- ・ 取組(R)指標については、基本的に1回/年進捗状況の確認を行う

## ⑤取組(R)指標絞り込み時の留意点

- ・ 「資料2-1」で整理した「視点①～③及び視点⑥～⑧」の指標選定の視点
- ・ 上記選定の視点を踏まえた各取組の総合評価点
- ・ 上記総合評価点が低い取組であっても、対応する状態(S)指標を向上させる上で、なくてはならない「取組」であるという視点